ご寄贈いただいた本やＣＤ、ＤＶＤなどを紹介するコーナーです。

ほかほかソフト

BOOKS

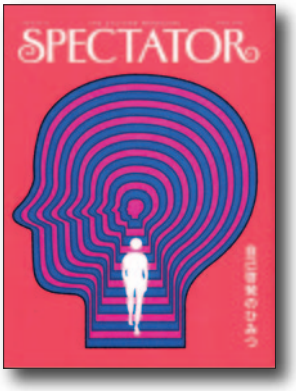
SPECTATOR vol.51
自己啓発のひみつ

【エディトリアル・デパートメント 発行／B5版 175p／¥1320／スペクテーター編集部】

ロゴを刷新した本号で丸々取り組んでいるテーマは自己啓発。主には日本編と米欧編だ。そして3人の人へのインタビュー、またSPECTATORお馴染みのマンガによるテーマ＝自己啓発って何だろう？を解いたページなどもある。その他、一番最初には編集部からの「本誌はなぜ自己啓発を　特集するのか？」という一文が入ったり、「自己啓発書をまとめて読んでみた」という国内外30冊の本を紹介するコーナーもある。

内容では、大澤絢子氏へのインタビューで、明治期以降の日本文化で「修養」（自分磨き）というものが大きな役割というか意味を持っていたという考えが面白い。新渡戸稲造や松下幸之助、ラルフ・ウォルドー・エマソン、鈴木清一（ダスキン）、一燈園などなど。日本の近代史にはまだまだたくさんの人や動きがあるようだ。

また斎藤直子氏のインタビューでは米哲学者エマソンについて詳しく述べられている。元々牧師だったエマソンは牧師を辞した後、講演を中心に活動していた人で、アカデミズムからは排斥されていたという。



なお本のイントロの最後にはこんな言葉を載せている。

「先に結論を言ってしまうと、自己啓発書自体が問題なのではない。本を読むということは、道徳・倫理的な面よりは、最終的にはその技術を「どう使うか」という主体性の問題だ。自己啓発書は一面で危険な要素をはらんでいるから、読むならきちんと危険を認識しておく必要があるし、メディアはその危険性を伝えなければならない」

CD

BOSCO

【THIKI PARLOUR RECORDS／全19曲 ¥2500／https://is.gd/vN9c1X】

京都に住むカイゼル髭の友人BOSCOのアルバムが出た。アメリカで作ったらしく、ジャケットの曲紹介やメンバー紹介は全て英文となっている。彼はフィドルやバンジョー弾きなので、アメリカンオールドタイム音楽のCDということになる。世にはレゲエとかブルース、カントリー他 さまざまな音楽のスタイルがある。オールドタイムはそれほど派手ではないし、ボーカルが入らないので直接的なメッセージは伝わりにくいが、根強い人気があるようだ。

BOSCOさんの腕は確かで、山水人などで別のバンドに飛び入りで弾いてるのを見ても、違和感なく様になっている。